

## 授業概要

科目名	基礎医学特論Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	中村 勇貴		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

内臓系～感覚器における範囲の作業療法国家試験過程(解剖・生理学)の要点8割以上を理解する。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

総合病院・回復期病院にて作業療法士として従事。主に身障領域・老年期領域にて現場で臨床現場を経験してきた教員が、本講義の通じて、国家試験範

【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】	
標準理学療法・作業療法学 基礎分野 解剖学		授業の内で提示した課題	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション 1. 内臓系①</p> <p>【到達目標】 内臓系(口腔、咽頭、食道、胃)について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>	9	<p>【授業単元】 2. 脈管系③</p> <p>【到達目標】 脈管系(心臓)について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>
2	<p>【授業単元】 1. 内臓系②</p> <p>【到達目標】 内臓系(小腸、大腸、肝臓、脾臓)について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>	10	<p>【授業単元】 2. 脈管系④</p> <p>【到達目標】 脈管系(動脈・静脈)について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>
3	<p>【授業単元】 1. 内臓系③</p> <p>【到達目標】 内臓系(気道、鼻腔、喉頭、気管)について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>	11	<p>【授業単元】 2. 脈管系⑤(まとめ)</p> <p>【到達目標】 今まで実施してきた脈管系の総まとめの理解・説明ができる。</p>
4	<p>【授業単元】 1. 内臓系④</p> <p>【到達目標】 内臓系(肺・腎臓・膀胱)について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>	12	<p>【授業単元】 3. 感覚系①</p> <p>【到達目標】 感覚系について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>
5	<p>【授業単元】 1. 内臓系⑤</p> <p>【到達目標】 内臓系(精巣・卵巣・尿道・性器)について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>	13	<p>【授業単元】 3. 感覚系②</p> <p>【到達目標】 感覚系について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>
6	<p>【授業単元】 1. 内臓系⑥(まとめ)</p> <p>【到達目標】 今まで実施してきた内臓系の総まとめの理解・説明ができる。</p>	14	<p>【授業単元】 総まとめ</p> <p>【到達目標】 今まで実施してきた感覚系の総まとめの概要・要点を理解・説明できる。</p>
7	<p>【授業単元】 2. 脈管系①</p> <p>【到達目標】 脈管系(心臓)について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>	15	<p>【授業単元】 定期テスト</p> <p>【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上</p>
8	<p>【授業単元】 中テスト(内臓系) 2. 脈管系②</p> <p>【到達目標】 脈管系(心臓・動脈)について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試験は筆記試験で行う。</li> <li>毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</li> </ul>
【履修に当たっての心構え・留意点】			
国家試験に直結する科目です。受講時にはメモを取るなどしっかり理解していくことが重要です。予習・復習もやっていきましょう。			

## 授業概要

科目名	基礎医学特論Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	中村 勇貴		
学科コース	作業療法土科夜間部	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

呼吸、循環、消化、吸收と代謝、内分泌の作業療法国家試験過程(解剖・生理学)の要点8割以上を理解する。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

総合病院・回復期病院にて作業療法士として従事。主に身障領域・老年期領域にて現場で臨床現場を経験してきた教員が、本講義の通じて、国家試験範

【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】	
標準理学療法・作業療法学 基礎分野 生理学 前期授業資料			
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション 前期基礎医学特論Ⅱの復習・応用①</p> <p>【到達目標】 前期基礎医学特論Ⅱの要点を理解・説明できる。</p>	9	<p>【授業単元】 11. 消化・吸収と代謝① (国家試験問題)</p> <p>【到達目標】 消化・吸収と代謝(機能)について、その概要・要点を理解・説明できる。 (国家試験問題を解き、知識の定着を図る)</p>
2	<p>【授業単元】 前期基礎医学特論Ⅱの復習・応用②</p> <p>【到達目標】 前期基礎医学特論Ⅱの要点を理解・説明できる。</p>	10	<p>【授業単元】 国家試験問題①</p> <p>【到達目標】 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。</p>
3	<p>【授業単元】 前期基礎医学特論Ⅱの復習・応用③</p> <p>【到達目標】 前期基礎医学特論Ⅱの要点を理解・説明できる。</p>	11	<p>【授業単元】 国家試験問題②</p> <p>【到達目標】 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。</p>
4	<p>【授業単元】 8. 呼吸①</p> <p>【到達目標】 呼吸について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>	12	<p>【授業単元】 国家試験問題③</p> <p>【到達目標】 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。</p>
5	<p>【授業単元】 8. 呼吸②</p> <p>【到達目標】 呼吸について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>	13	<p>【授業単元】 国家試験問題④</p> <p>【到達目標】 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。</p>
6	<p>【授業単元】 9. 循環①</p> <p>【到達目標】 循環について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>	14	<p>【授業単元】 国家試験問題⑤</p> <p>【到達目標】 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。</p>
7	<p>【授業単元】 9. 循環②</p> <p>【到達目標】 循環について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>	15	<p>【授業単元】 定期テストと授業の振り返り</p> <p>【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上</p>
8	<p>【授業単元】 中テスト(呼吸・循環) 10. 腎臓</p> <p>【到達目標】 腎臓について、その概要・要点を理解・説明できる。</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。</p> <p>毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>

## 授業概要

科目名	人間発達学	必修選択の別	必修	開講区分	前期集中	担当教員	佐々木愛理			
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
基本的な人間の発達を身体・認知・社会に分けて学び、その中の課題を認識し、作業療法士としてどのように関わっていくかを学ぶ。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)					訪問支援、児童発達支援、小児病棟での臨床経験のある教員が作業療法に必要な人間の根本的な発達の授業を実施する。					
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
人間発達学・資料					予習(教科書を読む)・復習(資料を読み返す)					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
	【授業単元】 人間発達学総論、人間発達における各機能の発達					【授業単元】				
1~3	【到達目標】 ・発達期の区分がわかる ・発達周辺の用語を知る ・発達の原則を知る					【到達目標】				
4~6	【授業単元】 身体、姿勢・移動動作の発達について 眼と手の協調の発達 認知機能の発達 【到達目標】 ・運動コントロールの運動学的基盤、運動発達を促進する原動がわかる ・誕生～姿勢・移動動作の発達過程と各段階における発達的特徴がわかる ・眼と手の協調の発達を知る ・認知機能の発達を知る					【授業単元】				
7~9	【授業単元】 コミュニケーションの発達 食事動作の発達 言語の発達 【到達目標】 ・コミュニケーションの発達 ・食事動作の発達を知る ・言語の発達を知る					【授業単元】				
10 ~12	【授業単元】 ・排泄動作の発達 ・更衣、整容動作の発達 ・遊びの発達 【到達目標】 ・排泄動作の発達を知る ・更衣、整容動作の発達を知る ・遊びの発達を知る					【授業単元】				
13 ~15	【授業単元】 ・社会性の発達 ・まとめ ・定期試験 【到達目標】 遊びと社会性の発達を知り、今まで習った範囲の確認を行う。 定期試験で理解度を把握する					【授業単元】				
	【授業単元】					【授業単元】				
	【到達目標】					【到達目標】				
	【授業単元】					【授業単元】				
	【到達目標】					【到達目標】				
	【授業単元】					【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】					定期試験60点、小テスト40点、計100点満点で成績評価をする。 小テストについては、「4~6コマ」「7~9コマ」「10~12コマ」「13~15コマ」の授業冒頭に実施する。 定期試験は15コマ目に実施する。 小テストはフォームを使用し、前回の授業内容から選択問題等を出題する。 定期試験はレポート等の成果物の提出を持って採点する。				
	【履修に当たっての心構え・留意点】									
	わからないことや発達領域、就職などの相談はいつでもしてください									

## 葫 蘆 標 要

## 授業概要

## 授業概要

科目名	内科学	必修 選択の別	必修	開講区分	前期集中	担当教員	田中直幸		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
様々な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学び、理解することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験しております。また、通信制の大学にて教育学を履修済み。双方向のやりとりを通して、様々な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療の理解を深めています。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版					内科学は生理学や解剖学などの基礎医学を基盤としているため、生理学や解剖学の復習をお願いします。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 内科学とは 内科的診断と治療の実際  【到達目標】 内科学について概要を理解することができる。 診察について理解することができる。	9	【授業単元】 血液・造血器疾患について  【到達目標】 血液や造血の異常によっておこる症状や病態生理を理解することができる。 主要な血液疾患の症状・病態について理解することができる。						
2	【授業単元】 症候学について  【到達目標】 症候とは何か理解することができる。 発熱・全身倦怠感・頭痛などの概念とメカニズムを理解できる。 主要な症候を生じる病態と関連疾患を理解することができる。	10	【授業単元】 代謝性疾患について  【到達目標】 代謝性疾患の病態と臨床的特徴について理解することができる。 ビタミン欠乏症の臨床的特徴について理解することができる。						
3	【授業単元】 循環器疾患について  【到達目標】 循環器疾患の概念や病理・症状・臨床所見・検査・治療について理解することができる。 循環器疾患をもつ患者様へのリハビリを実施する際の留意点を理解できる。	11	【授業単元】 内分泌疾患について  【到達目標】 ホルモンの作用機序を理解することができる。 ホルモンの種類・機能を理解することができる。 主要な内分泌疾患の概念・病態・治療法を理解することができる。						
4	【授業単元】 呼吸器疾患について  【到達目標】 呼吸機能を測定する検査法と基準値について理解することができる。 主要な呼吸器疾患の概念・病態生理・症状・検査・治療・予後について理解することができる。 呼吸リハビリテーションについて理解することができる。	12	【授業単元】 腎・泌尿器疾患について  【到達目標】 腎臓の障害によっておこりうる症状を理解することができる。 主要な腎・泌尿器疾患の概念・病態・症状・検査法・治療法について理解することができる。 腎臓リハビリテーションについて理解することができる。						
5	【授業単元】 消化管疾患について  【到達目標】 消化管疾患の症候と病態生理について理解することができる。 消化管疾患の診断法を理解することができる。 主要な消化管疾患の概念・病態・症状と治療法について理解することができる。	13	【授業単元】 栄養について  【到達目標】 栄養の意味と栄養素の働きを理解することができる。 リハビリテーションに必要な栄養量について理解することができる。 代替栄養の概略について理解することができる。						
6	【授業単元】 肝胆膵疾患について  【到達目標】 肝臓・胆道・膵臓・腹膜疾患の症候と病態生理・検査方法・治療方法について理解することができる。	14	【授業単元】 授業の振り返り  【到達目標】 第9回目から第13回目までの授業で不十分な点を理解し、不十分な内容について理解を深める						
7	【授業単元】 授業の振り返り  【到達目標】 第1回目から第6回目までの授業で不十分な点を理解し、不十分な内容について理解を深めることができる。	15	【授業単元】 定期試験・前期の振り返りおよび試験解答  【到達目標】 どの程度内科学について理解できているか確認することができる。 理解が不十分な内容について理解を深めることができる。						
8	【授業単元】 中テスト・前半の授業の振り返りおよび試験解答  【到達目標】 どの程度内科学について理解できているか確認することができる。 理解が不十分な内容について理解を深めることができます。		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】					内科学は臨床にてからもとても重要です。難しい内容ではありますが、主体的に取り組むようにしてください。 また、分からぬことは積極的に質問をお願いします。				

## 授業概要

科目名	精神医学	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	滝吉 翔		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

**【授業を通じての到達目標】**

精神疾患の病態、病型と分類並びに精神疾患から派生する障害を説明出来るようになる。

**【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)**

精神科病院、精神科訪問看護、精神科グループホームなどを経験し現在は大学教員をしながら大学院博士後期課程を履修中の教員が国家試験対策を想定しつつ精神医学に興味関心を抱いていただけるような授業展開を心がけます。

**【使用教科書・教材・参考図書】**

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学  
第4版 増補版 (医学書院)

**【授業時間外における学習】**

授業時間に対しボリュームがあるので駆け足で進めます。参考図書に沿って進めますので、予習・復習をしっかりしてください。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 1)オリエンテーション 2)国家試験問題を解いてみよう</p> <p>【到達目標】 1)授業の進め方について理解できる。 2)国家試験の出題傾向が理解できる。</p>	9	<p>【授業単元】 脳器質性精神障害</p> <p>【到達目標】 多様な認知症が説明できる。</p>
2	<p>【授業単元】 精神医学とは</p> <p>【到達目標】 精神医学を学ぶ意義が理解できる。</p>	10	<p>【授業単元】 精神作用物質による精神および行動の障害</p> <p>【到達目標】 アルコール依存、薬物依存の回復過程が理解できる。</p>
3	<p>【授業単元】 精神障害の成因と分類</p> <p>【到達目標】 精神障害の成因の相互関係が理解できる。精神障害の分類が理解できる。</p>	11	<p>【授業単元】 てんかん</p> <p>【到達目標】 てんかんの概念、および諸症状が説明できる。</p>
4	<p>【授業単元】 精神機能の障害と精神症状</p> <p>【到達目標】 精神機能の種類、主な精神症状の特徴について理解できる。</p>	12	<p>【授業単元】 神経症性障害</p> <p>【到達目標】 神経症性障害の種類とそれぞれの臨床的特徴が説明できる。</p>
5	<p>【授業単元】 精神障害の診断と評価</p> <p>【到達目標】 多様な側面から捉える精神障害の診断と評価方法が理解できる。</p>	13	<p>【授業単元】 精神障害の治療とりハビリテーション</p> <p>【到達目標】 精神障害に対して用いられている主な治療法の種類と特徴、適応について説明できる。向精神薬の効果と副作用が説明できる。</p>
6	<p>【授業単元】 統合失調症</p> <p>【到達目標】 統合失調症がどのような病気か説明できる。</p>	14	<p>【授業単元】 精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション</p> <p>【到達目標】 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律からその要点が説明できる。</p>
7	<p>【授業単元】 気分障害</p> <p>【到達目標】 うつ病と躁うつ病の特徴が説明できる。</p>	15	<p>【授業単元】 全範囲の定期テスト、全体の振り返り、社会・文化とメンタルヘルス</p> <p>【到達目標】 精神医学全体を振り返り、精神障害に捉われない現代社会、あるいは健常者におけるメンタルヘルスの課題が説明できる。</p>
8	<p>【授業単元】 中テストとこれまでの振り返り</p> <p>【到達目標】 過去の国家試験に出題された問題が解ける。</p>	<p><b>【成績評価の方法と基準】</b></p> <p>科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。</p> <p>毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>	
<p><b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b></p> <p>国家試験対策を念頭に授業を進めます。興味をもって学びを深めて欲しいので、疑問に感じたところなどは積極的に質問してください。摂食障害とバーナリティー障害は国家試験では必ず出ますが、授業内で時間を取れない可能性が高いです。ページ数としては決して多くないので、自己学習をしていただくかも知れません。</p>			

## 授業概要

科目名	臨床心理学	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	小林 誠		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理的な対人援助の方法と実際に理解することで、医療・福祉の現場で人を心理的に支援する能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
講師は、作業療法士として17年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年。教育関係の仕事も同時に取り組んでおり、今年で10年目となる。現在は障害者の就労支援を行う事業所も経営している。本科目では、私たち(対人援助職)が知っておくべき臨床心理学の基礎知識を分かりやすく、楽しく伝える。また、講師は国家試験対策にも精通しており、国家試験に合格できる知識を獲得することを目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
リハビリテーションのための臨床心理学 牧瀬英幹著 南江堂					授業内容の復習。 ・誰かに伝えるつもりで復習をしてみましょう。				
回	授業計画	回	授業計画						
1	【授業単元】 <b>オリエンテーション</b>  【到達目標】 この科目的進め方や、臨床心理学の全体像をつかむ。	9	【授業単元】 <b>心理アセスメントと心理検査 ③</b>  【到達目標】 心理アセスメント・心理検査について簡潔に説明できる。						
2	【授業単元】 <b>対人関係について考えてみよう ①</b>  【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。	10	【授業単元】 <b>心理療法について学ぼう ①</b>  【到達目標】 クライアント中心療法について、簡潔に説明できる。						
3	【授業単元】 <b>対人関係について考えてみよう ②</b>  【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。	11	【授業単元】 <b>心理療法について学ぼう ②</b>  【到達目標】 森田療法について、簡潔に説明できる。						
4	【授業単元】 <b>対人関係について考えてみよう ③</b>  【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。	12	【授業単元】 <b>心理療法について学ぼう ③</b>  【到達目標】 認知行動療法について簡潔に説明できる。						
5	【授業単元】 <b>対人援助の過程で起こること ①</b>  【到達目標】 防衛機制について、簡潔に説明できる。	13	【授業単元】 <b>国家試験の対策をしよう ①</b>  【到達目標】 国家試験の問題(臨床心理学)が解ける。						
6	【授業単元】 <b>対人援助の過程で起こること ②</b>  【到達目標】 転移・逆転移について、簡潔に説明できる。	14	【授業単元】 <b>国家試験の対策をしよう ②</b>  【到達目標】 国家試験の問題(臨床心理学)が解ける。						
7	【授業単元】 <b>心理アセスメントと心理検査 ①</b>  【到達目標】 心理アセスメント・心理検査について簡潔に説明できる。	15	【授業単元】 <b>定期テスト</b>  【到達目標】 計15回の総合計得点:60点以上						
8	【授業単元】 <b>心理アセスメントと心理検査 ②</b>  【到達目標】 心理アセスメント・心理検査について簡潔に説明できる。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A~Fの6段階で評価する。  100点の内訳は、 ①定期テストが60点満点。 ②小テスト(各回の合計)が40点満点。 ②の内訳は、 第1回授業 … 1点 第2~14回 … 3点 × 13回 = 39点 (以上 合計で40点)  ①と②の合計で100点満点。  ※本科目では、中テストは行わない。 ※定期テスト、小テストは資料持ち込み可。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
本科目は「心理学」をさらに専門的にした内容です。 内容が前期よりも難しくなりますが、集中してしっかり受講して下さい。									

## 授業概要

科目名	一般臨床医学Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	前期後半	担当教員	星野 裕亮		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

## 【授業を通じての到達目標】

各疾患の病因、病態生理、症候、診断、栄養管理と薬理、画像診断、障害予防について学ぶ

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

大学病院でかつ急性期医療の中で働く作業療法士(18年目)が、臨床現場で必要となる臨床医学を経験談を交えて提供する。必要に応じてグループワークを行い、各疾患における様々な評価方法や作業療法への展開の仕方を学ぶ。

【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】	
授業資料 指定教科書		自主学習	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 循環器疾患</p> <p>【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ</p>		
2,3	<p>【授業単元】 呼吸器疾患、消化器疾患</p> <p>【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ</p>		
4,5	<p>【授業単元】 肝・胆・脾疾患、感染症</p> <p>【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ</p>		
6,7	<p>【授業単元】 血液・造血器疾患、内分泌疾患</p> <p>【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ</p>		
8,9	<p>【授業単元】 腎・尿路・生殖器疾患、神経・運動器疾患</p> <p>【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ</p>		
10,11	<p>【授業単元】 アレルギー疾患・膠原病・免疫病・代謝・栄養障害</p> <p>【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ</p>		
12,13	<p>【授業単元】 感覚器疾患、中毒・染色体・遺伝子異常症</p> <p>【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ</p>		
14,15	<p>【授業単元】 皮膚および胸壁の疾患、総復習、テスト</p> <p>【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ これまでの講義の中で行った各疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防の確認</p>	<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <p>・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(おおよそ半分の授業週で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</p>	
【履修に当たっての心構え・留意点】			
国試や臨床に出た際に必要になる知識ですので積極的な参加を期待します。 分からないことがあれば授業時やteams上でいつでも質問してください。			

## 授業概要

科目名	病理学概論	必修選択の別	必修	開講区分	前期集中	担当教員	大和田 みな未		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

病理学は病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする学問であり、疾患や障害を理解する上では重要な知識である。ここでは組織学的形態学を中心概観し、病気がどのように成り立っていくのかを理解する。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域で約8年間臨床経験を積んだ教員が、病理学の知識を伝え、知識の定着を図るとともに、各疾患を呈する対象者に対し、今後作業療法士としてどのようなスキルが求められるのかについて自身の考えを持つことができるような授業を行っていきます。

【使用教科書・教材・参考図書】	【授業時間外における学習】
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学第5版 医学書院 参考図書 適宜授業内で紹介します。	予習復習をしっかりと行い、知識の定着を図りましょう。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション 病理学の概要について</p> <p>【到達目標】 病理学の歴史について知ることができる 病理学総論について知ることができる 病院論について理解できる 病理学を学ぶ意義欲を持つことができる</p>	9	<p>【授業単元】 神経系について</p> <p>【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる</p>
2	<p>【授業単元】 退行性病変、進行性病変について 代謝障害について</p> <p>【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる</p>	10	<p>【授業単元】 運動器について</p> <p>【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる</p>
3	<p>【授業単元】 循環障害について 免疫について</p> <p>【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる</p>	11	<p>【授業単元】 泌尿・生殖器について</p> <p>【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる</p>
4	<p>【授業単元】 炎症、感染症について 腫瘍について 老化について</p> <p>【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる</p>	12	<p>【授業単元】 内分泌臓器について</p> <p>【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる</p>
5	<p>【授業単元】 先天異常、奇形について 循環器について</p> <p>【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる</p>	13	<p>【授業単元】 造血器について</p> <p>【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる</p>
6	<p>【授業単元】 呼吸器について</p> <p>【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる</p>	14	<p>【授業単元】 皮膚、感覺器について</p> <p>【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる</p>
7	<p>【授業単元】 消化器について</p> <p>【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる</p>	15	<p>【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説</p> <p>【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。</p>
8	<p>【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説</p> <p>【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記で行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。毎回授業の小テストと定期テストの点数の合算にて評価を行うが、その数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。</p>
	<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>得た知識から対象者の臨床像をイメージし、各疾患に対し作業療法士としてどんな対応が必要か自身の考えを持てるようにならねばならない。</p>		

## 授業概要

科目名	脳神経内科学	必修選択の別	必修	開講区分	前期集中	担当教員	大橋 航祐		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
脳神経疾患の疾病を理解するとともに、これらの疾病から派生する障害について説明できるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は身体障害領域の急性期病院5年、回復期病院6年、また非常勤として週1回精神科病院、発達児童の放課後等デイサービスにて約2年経験。脳神経内科疾患の理解と同時に、その土台となる基礎知識の振り返りを徹底しながら特に解剖運動学との科目間のつながりを深める。また評価学など臨床との関連についても深めていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
脳神経内科学					授業で提示する基礎課題の反復学習を推奨します。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション 脳神経内科学に関わる解剖知識と疾患① 脳の解剖学について  【到達目標】 この科目で何を学ぶのかを理解できる。脳神経内科学とその土台となる解剖運動学との関連性を理解できる	9	【授業単元】 脳神経内科学に関わる解剖知識と疾患④ 難体外路について  【到達目標】 解剖学・運動学について復習し、脳神経内科疾患理解に向けて知識を整理することができる。						
2	【授業単元】 脳神経内科学に関わる解剖知識と疾患② 難体路について  【到達目標】 解剖学・運動学について復習し、脳神経内科疾患理解に向けて知識を整理することができる。	10	【授業単元】 難体外路系疾患について  【到達目標】 難体外路系疾患について理解することができる。						
3	【授業単元】 脳血管障害について①  【到達目標】 脳血管障害について理解することができる	11	【授業単元】 神経学的診断と検査について  【到達目標】 脳画像を中心に脳の構造と病態と理解することができる						
4	【授業単元】 脳血管障害について②  【到達目標】 脳血管障害について理解することができる	12	【授業単元】 認知症について  【到達目標】 代表疾患や特徴についての理解を深めることができる						
5	【授業単元】 脳神経内科学に関わる解剖知識と疾患③ 高次脳機能について  【到達目標】 解剖学・運動学について復習し、脳神経内科疾患理解に向けて知識を整理することができる。	13	【授業単元】 変性疾患、てんかん、その他疾患について  【到達目標】 代表疾患や特徴についての理解を深めることができます						
6	【授業単元】 高次脳機能障害について  【到達目標】 脳血管疾患によって起きる高次脳機能障害について理解することができる。	14	【授業単元】 脳神経系疾患の総復習  【到達目標】 脳神経系疾患の理解し、整理することができる						
7	【授業単元】 その他脳疾患について  【到達目標】 脳疾患について理解することができる	15	【授業単元】 復習 定期テスト  【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 小テスト、中間試験、定期試験の合計が6割以上を達成できる。						
8	【授業単元】 中テストと中枢神経系の振り返り  【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる 自身の理解度、習得度を把握することができる。	【成績評価の方法と基準】							
		科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験にて行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。							
【履修に当たっての心構え・留意点】									
主観的に参加する									

## 授業概要

科目名	作業療法管理学	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	二村元気		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法の臨床における制度的な統制と施設の組織的な管理について理解するとともに、職場管理の問題を同定し、自律的に思考したことを表現する能力を身につける。作業療法実践に関連する法律と諸制度について理解する。作業療法教育においては、実習指導を中心とした現場での学生指導、新人教育などの卒業後教育に必要な要素や仕組みについて理解し、自身・後進の育成におけるキャリアマップをイメージすることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
実務経験:養成校卒業後、介護老人保健施設、通所リハビリテーションで勤務する。現施設では、通所リハの立ち上げを行い施設管理者代行として生活期のリハビリテーションに携わっている。 授業内容:教科書の内容をベースとして、臨床の業務に必要となる管理学の知識を学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書:作業療法管理学 入門(第2版) 参考教科書:同上					次回内容はシラバスを確認し教科書に目を通してください。 小テスト・定期テストは教科書、講義資料内から出題します。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 作業療法におけるマネジメント  【到達目標】 作業療法におけるマネジメントの重要性を理解する。			9	【授業単元】 作業療法の役割と領域  【到達目標】 作業療法に関する法律および定義、職能団体の意義と役割、将来に期待される作業療法の領域について理解する。				
					【授業単元】 作業療法士の職業倫理  【到達目標】 作業療法に関する倫理に関して学び、対象者の権利や尊厳について理解する。				
2	【授業単元】 組織の成り立ちとマネジメント  【到達目標】 作業療法士が所属する組織や作業療法士の役割について理解する。			10	【授業単元】 作業療法をとりまく諸制度  【到達目標】 社会保障制度のなかで、作業療法士が多くが所属する事業所の運営に関する制度を理解する。				
					【授業単元】 情報のマネジメント  【到達目標】 情報の重要性について理解し、その取扱いの注意事項に関して学ぶ。				
4	【授業単元】 作業療法と医療サービス  【到達目標】 質の高い作業療法サービスが提供できるよう、サービスの基本的特性と構成を理解する。			12	【授業単元】 作業療法臨床実習の理解と管理体制  【到達目標】 臨床実習について学び、その重要性や到達目標について理解する。				
					【授業単元】 作業療法士のキャリア開発①  【到達目標】 卒業後の研修会や学会の制度や仕組みに関して理解する。				
6	【授業単元】 作業療法業務のマネジメント①(人・物・経済性のマネジメント)  【到達目標】 作業療法現場での人や物、経済のマネジメント方法に関して学ぶ。			14	【授業単元】 作業療法士のキャリア開発②  【到達目標】 ワークライフバランスを理解したうえで、自身のキャリア形成に関して考える。				
					【授業単元】 定期試験  【到達目標】 ・作業療法領域におけるマネジメントについて知識の整理を行う。				
8	【授業単元】 作業療法業務のマネジメント②(情報・時間・ストレスのマネジメント)  【到達目標】 作業療法における情報とその特性やタイムマネジメント、ストレスマネジメントについて学ぶ。				【成績評価の方法と基準】 小テスト:13回×5点 中テスト:1回×15点 定期テスト:1回×60点  小テストと中テストはその合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。				
	【履修に当たっての心構え・留意点】 教科書の内容をベースに臨床での実践例を通して学んでいきたいと思います。 補足が必要な内容があれば講義中や講義後に質問してください。								

## 授業概要

科目名	身体運動系評価学Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	泉 良太		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

身体機能に関する基本的な評価法の習得を目指す。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

作業療法士として急性期・回復期病院、訪問リハビリに従事。車いすシーティング、脳画像の外部セミナーを複数実施。本講義では、解剖運動学などの基礎医学的な解釈を踏まえながら、身体機能における評価法実技を教示する。

【使用教科書・教材・参考図書】

標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院  
徒手筋力検査法 第10版 協同医書出版社

【授業時間外における学習】

授業時間外を利用して計画的に実技の練習をして下さい。  
予め申し出で頂ければ、担当教員が練習に同席することも可能です。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	【授業単元】 授業オリエンテーション 臨床における評価の位置づけと重要性について  【到達目標】 臨床における評価の意義を理解し、今後の学習の心構えを作ることができる	9	【授業単元】 感覚検査について(動画撮影)  【到達目標】 感覚検査を教科書に基づいて実施でき、かつ相手に分かりやすい説明、言葉遣い等の基本的接遇にも配慮できる。
2	【授業単元】 触診について  【到達目標】 触診技法からひとの体に触れるうことの基本を習得する。	10	【授業単元】 反射検査について  【到達目標】 反射検査の目的、注意点、実施方法を理解できる。
3	【授業単元】 筋緊張の評価  【到達目標】 触診技法を用い、骨格筋の筋緊張の違いを感じ取ることができる。	11	【授業単元】 反射検査について(動画撮影)  【到達目標】 反射検査を教科書に基づいて実施でき、かつ相手に分かりやすい説明、言葉遣い等の基本的接遇にも配慮できる。
4.	【授業単元】 関節可動域測定について  【到達目標】 関節可動域測定の目的、注意点、実施方法を理解できる。	12	【授業単元】 実技発表会  【到達目標】 これまで学んだ実技を全体の前で発表し、一定の緊張感の中でも実技を実施することができる。
5	【授業単元】 関節可動域測定について(動画撮影)  【到達目標】 関節可動域測定を教科書に基づいて実施でき、かつ相手に分かりやすい説明、言葉遣い等の基本的接遇にも配慮できる。	13	【授業単元】 バランス検査  【到達目標】 バランス検査の目的、注意点、実施方法を理解できる。
6	【授業単元】 徒手筋力検査法について  【到達目標】 徒手筋力検査法の目的、注意点、実施方法を理解できる。	14	【授業単元】 上肢機能検査  【到達目標】 上肢機能検査の目的、注意点、実施方法を理解できる。
7	【授業単元】 徒手筋力検査法について(動画撮影)  【到達目標】 徒手筋力検査法を教科書に基づいて実施でき、かつ相手に分かりやすい説明、言葉遣い等の基本的接遇にも配慮できる。	15	【授業単元】 定期試験  【到達目標】
8	【授業単元】 感覚検査について  【到達目標】 感覚検査の目的、注意点、実施方法を理解できる。	<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストは課題提出またはチームでの試験にて実施する</li> <li>・中テストは第12回の実技発表とする。</li> </ul>	
<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>授業内容は学生の理解度によって変更する場合がある。</p>			

## 授業概要

科目名	身体運動系評価学演習	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	泉 良太		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

身体機能に関する基本的な評価法の知識・技術を持って、具体的な疾患・障害に対する評価法の選択や適応、実施を計画することができる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

作業療法士として急性期・回復期病院、訪問リハビリに従事。車いすシーティング、脳画像の外部セミナーを複数実施。本講義では、解剖運動学などの基礎医学的な解釈を踏まえながら、身体機能における評価法実技を教示する。

【使用教科書・教材・参考図書】

標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院  
徒手筋力検査法 第10版 協同医書出版社

【授業時間外における学習】

授業時間外を利用して計画的に実技の練習をして下さい。  
予め申し出て頂ければ、担当教員が練習に同席することも可能です。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 授業全体のオリエンテーション 脳卒中における評価法 ①疾患概要と作業療法評価の全体像</p> <p>【到達目標】 脳卒中の概要を把握し、作業療法評価の全体像を理解できる。</p>	9	<p>【授業単元】 姿勢・動作観察と分析 -臥位と寝返り-</p> <p>【到達目標】 "ありのままを捉える"という観察視点を用いて、正常動作と目の前の現象の差異に気づくことができる。</p>
2	<p>【授業単元】 脳卒中における評価法 ②ブルンストロームステージテストと上田法</p> <p>【到達目標】 ブルンストロームステージテストと上田法の目的、注意点、実施方法を理解できる。</p>	10	<p>【授業単元】 姿勢・動作観察と分析 -座位と起立-</p> <p>【到達目標】 "ありのままを捉える"という観察視点を用いて、正常動作と目の前の現象の差異に気づくことができる。</p>
3	<p>【授業単元】 脳卒中における評価法 ②ブルンストロームステージテストと上田法(動画撮影)</p> <p>【到達目標】 ブルンストロームステージテストと上田法を教科書に基づいて実施でき、かつ相手に分かりやすい説明、言葉遣い等の基本的接遇にも配慮できる。</p>	11	<p>【授業単元】 MTDLPについて</p> <p>【到達目標】 MTDLPの概念を理解することができる。</p>
4	<p>【授業単元】 脳卒中における評価法 ③協調性検査(動画撮影)</p> <p>【到達目標】 協調性検査を教科書に基づいて実施でき、かつ相手に分かりやすい説明、言葉遣い等の基本的接遇にも配慮できる。</p>	12	<p>【授業単元】 症例検討</p> <p>【到達目標】 症例検討を通して、より具体的な評価法の選定と実施計画、結果の解釈の基本ができるようになる。</p>
5	<p>【授業単元】 脳卒中における評価法 ④症例検討 ~必要な評価の検討~</p> <p>【到達目標】</p>	13	<p>【授業単元】 症例検討</p> <p>【到達目標】 症例検討を通して、より具体的な評価法の選定と実施計画、結果の解釈の基本ができるようになる。</p>
6	<p>【授業単元】 脳卒中における評価法 ④症例検討 ~必要な評価の検討~ 発表</p> <p>【到達目標】</p>	14	<p>【授業単元】 症例検討</p> <p>【到達目標】 症例検討を通して、より具体的な評価法の選定と実施計画、結果の解釈の基本ができるようになる。</p>
7	<p>【授業単元】 整形外科疾患における評価法 ①疾患概要と作業療法評価の全体像</p> <p>【到達目標】</p>	15	<p>【授業単元】 定期試験</p> <p>【到達目標】</p>
8	<p>【授業単元】 整形外科疾患における評価法 ②症例を想定した評価法の実施 -ROM、MMT、形態測定-(動画撮影)</p> <p>【到達目標】</p>	<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <p>※10月18日(金)13:10-16:20に3年生の実習成果発表会を実施します。 外部会場を予定しています。なるべく参加されることをお勧めします。</p>	
<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>授業内容は学生の理解度によって変更する場合がある。</p>			

## 授業概要

科目名	精神心理系評価学Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	魚岸 実弦		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害者作業療法評価総論について理解する</li> <li>・これまでに学んだ精神障害領域、高齢期領域の基礎知識をふまえ、基礎的な評価技法を習得する</li> <li>・実際の臨床場面で評価するための総合的な能力を身につける</li> </ul>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は作業療法士及び社会福祉士であり、博士の学位をもつ。精神科病院作業療法士及び障害者グループホーム管理者の実務経験と、社会福祉協議会小地域福祉活動の扱い手経験、精神保健福祉領域のリハビリテーション研究経験を基に、入院治療から地域生活支援まで幅広く活かせる授業を展開する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害者作業療法 新版 / 作業療法学 ゴールドマスター テキスト 精神障害者作業療法学 第3版</li> <li>・精神科リハビリテーション評価法ハンドブック / その他、授業内で関連資料を配布する</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎授業前後30分程度、学習内容の予復習や考察の機会をもつことを望む</li> </ul>				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1 4/19	<p>【授業単元】            ・オリエンテーション            ・精神科作業療法の手順</p> <p>【到達目標】            ・本科目の概要を説明できる            ・精神科作業療法における基本の流れを説明できる</p>	9 6/21	<p>【授業単元】            ・精神科作業療法の目標設定</p> <p>【到達目標】            ・精神科作業療法における目標設定の原則、期間を説明できる</p>						
2 4/26	<p>【授業単元】            ・精神科作業療法で用いる面接①</p> <p>【到達目標】            ・精神科作業療法で用いる面接の構造、特長、要素、形態、種類、留意点を説明できる</p>	10 6/28	<p>【授業単元】            ・精神科作業療法計画の作成</p> <p>【到達目標】            ・精神科作業療法計画における作業選択、作業療法士のかかわり方、集団の利用の有無と目的、作業療法を実施する場所の選択、時間・頻度・場所の設定を説明できる</p>						
3 5/10	<p>【授業単元】            ・精神科作業療法で用いる面接②</p> <p>【到達目標】            ・作業(構成的作業と投影的作業)を用いた面接の特長を説明できる</p>	11 7/5	<p>【授業単元】            ・精神科作業療法におけるリハビリテーションシートの利用</p> <p>【到達目標】            ・リハビリテーションシートの利用法を説明できる            ・リハビリテーションシートの記入の仕方を理解できる</p>						
4 5/17	<p>【授業単元】            ・精神科作業療法における観察①</p> <p>【到達目標】            ・精神科作業療法における観察の構造、形態、関与の仕方、非言語的なサインの観察ポイントを説明できる</p>	12 7/12	<p>【授業単元】            ・精神科作業療法の効果検討</p> <p>【到達目標】            ・精神科作業療法における効果検討の手法、視点を説明できる</p>						
5 5/24	<p>【授業単元】            ・精神科作業療法における観察②</p> <p>【到達目標】            ・活動(日常生活)機能と参加機能の観察ポイントを説明できる</p>	13 7/19	<p>【授業単元】            ・精神科作業療法における評価の実際①</p> <p>【到達目標】            ・事例①を通した評価のポイントを説明できる</p>						
6 5/31	<p>【授業単元】            ・精神科作業療法における検査</p> <p>【到達目標】            ・精神科作業療法で用いる検査の概要を説明できる</p>	14 7/26	<p>【授業単元】            ・精神科作業療法における評価の実際②</p> <p>【到達目標】            ・事例②を通した評価のポイントを説明できる</p>						
7 6/7	<p>【授業単元】            ・精神科作業療法における調査</p> <p>【到達目標】            ・精神科作業療法で用いる調査の概要を説明できる</p>	15 8/2	<p>【授業単元】            ・定期試験</p> <p>【到達目標】            ・これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる            ・小テスト、中テスト、定期試験の合計が6割以上を達成できる</p>						
8 6/14	<p>【授業単元】            ・中テスト            ・精神科作業療法における記録</p> <p>【到達目標】            ・前半の振り返りとして中テストを行い、自己の学習理解度を把握できる            ・精神科作業療法における記録のポイントを説明できる</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の中テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う</li> <li>・試験は筆記試験で行う</li> <li>・毎回授業の中テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする</li> </ul>						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを大切にし、授業に臨むことを望む</li> <li>・開講日:金曜日18時～19時半(6限)</li> </ul>									

## 授業概要

科目名	精神心理系評価学演習	必修 選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	魚岸 実弦		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

- ・精神障害者作業療法評価の流れ、情報収集と解釈について理解する
- ・対象者の基本情報を基に、評価計画立てができる
- ・評価面接及び観察、記録の基本的な技法を身につける
- ・各領域の評価法及び代表的疾患の評価事例について理解する

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

教員は作業療法士及び社会福祉士であり、博士の学位をもつ。精神科病院作業療法士及び障害者グループホーム管理者の実務経験と、社会福祉協議会小地域福祉活動の扱い手経験、精神保健福祉領域のリハビリテーション研究経験を基に、入院治療から地域生活支援まで幅広く活かせる授業を展開する

【使用教科書・教材・参考図書】

- ・精神障害者作業療法 新版 / 作業療法学 ゴールドマスター テキスト 精神障害者作業療法学 第3版
- ・精神利ハビリテーション 評価法ハンドブック / その他、授業内で関連資料を配布する

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1 4/19	<p>【授業単元】 ・オリエンテーション ・精神科作業療法における基礎情報収集</p> <p>【到達目標】 ・本科目の概要を説明できる ・対象者に関する基礎情報収集のポイントを説明できる</p>	9 6/21	<p>【授業単元】 ・認知症者に対する評価</p> <p>【到達目標】 ・認知症者に対する評価のポイントを説明できる ・逆向健忘の評価の仕方を理解できる ・作業遂行能力の評価の視点を理解できる</p>
2 4/26	<p>【授業単元】 ・精神科作業療法への試し参加・導入面接</p> <p>【到達目標】 ・精神科作業療法への試し参加・導入面接のポイントを説明できる ・試し参加における観察ポイントを説明できる</p>	10 6/28	<p>【授業単元】 ・評価項目の把握</p> <p>【到達目標】 ・ICF(国際生活機能分類)を基にした対象者の評価項目を説明できる</p>
3 5/10	<p>【授業単元】 ・時間軸を意識した面接 ・面接におけるソクラテスクエスチョンの活用</p> <p>【到達目標】 ・対象者に対する時間軸(現在・過去・未来)を意識した面接のポイントを説明できる ・対話法の一つであるソクラテスクエスチョンのポイントを説明できる</p>	11 7/5	<p>【授業単元】 ・リハビリテーションシートを活用した評価</p> <p>【到達目標】 ・リハビリテーションシートを活用した評価のポイントを説明できる</p>
4 5/17	<p>【授業単元】 ・対象者との複雑な話題に対する面接</p> <p>【到達目標】 ・対象者の語る妄想等を面接で扱う留意点を説明できる</p>	12 7/12	<p>【授業単元】 ・評価計画の作成</p> <p>【到達目標】 ・評価計画作成のポイントを説明できる</p>
5 5/24	<p>【授業単元】 ・構成的作業を活用した面接</p> <p>【到達目標】 ・構成的作業を活用した面接のポイントを説明できる ・構成的作業の観察の視点を理解できる</p>	13 7/19	<p>【授業単元】 ・事例に基づいた評価計画の作成①</p> <p>【到達目標】 ・事例①の基本情報を基に、評価計画を作成できる</p>
6 5/31	<p>【授業単元】 ・投影的作業を活用した面接</p> <p>【到達目標】 ・投影的作業を活用した面接のポイントを説明できる ・投影的作業の観察の視点を理解できる</p>	14 7/26	<p>【授業単元】 ・事例に基づいた評価計画の作成②</p> <p>【到達目標】 ・事例②の基本情報を基に、評価計画を作成できる</p>
7 6/7	<p>【授業単元】 ・面接による調査</p> <p>【到達目標】 ・面接による対象者の生活史調査のポイントを説明できる ・面接による対象者の環境因子調査のポイントを説明できる</p>	15 8/2	<p>【授業単元】 ・定期試験</p> <p>【到達目標】 ・これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる ・小テスト、中テスト、定期試験の合計が6割以上を達成できる</p>
8 6/14	<p>【授業単元】 ・中テスト ・精神科作業療法における検査の活用</p> <p>【到達目標】 ・前半の振り返りとして中テストを行い、自己の学習理解度を把握できる ・気分と疲労のチェックリスト(SMSF)使用のポイントを説明できる</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う</li> <li>・試験は筆記試験で行う</li> <li>・毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする</li> </ul>
【履修に当たっての心構え・留意点】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを大切にし、授業に臨むことを望む</li> <li>・開講日:金曜日19時40分～21時10分(7限)</li> </ul>			

## 授業概要

科目名	義肢装具学	必修選択の別	必修	開講区分	後期集中	担当教員	岩本大志		
学科コース	作業療法士科 夜間部	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
義肢装具学について学び、臨床および国家試験でのポイントを理解出来るようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床面では、急性期・回復期病院に8年間勤務し、その後東京メディカルスポーツ専門学校にて専任講師を6年間担当。現在整形外科クリニックに勤務(臨床経験年17年目)。教育面では、東京メディカルスポーツ専門学校(担当:義肢装具学・評価学概論・地域リハビリテーションなど)に従事。臨床、教育両面の経験を活かし学生とのコミュニケーションを大切にし講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】					
メジカルビュー 作業療法学 ゴールドマスター 義肢装具学				授業内で提示した課題					
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 義肢学 義肢編 義肢を学ぶ上で必要な医学的知識 教科書P62~77 【到達目標】 切断総論P62~77 その範囲の概要・要点を理解・説明できる。				2	【授業単元】 義肢学 切断のリハビリテーション 【到達目標】 断端管理方法について理解する。ソフトレッシングが巻けるようになる。			
3	【授業単元】 義肢学 義足総論・義足各論(下腿義足・大腿義足) 教科書P39~51 P138~151 【到達目標】 教科書P39~51 P138~151について、その概要・要点を理解・説明できる。				4	【授業単元】 義手総論 教科書P15~38 【到達目標】 教科書P15~38について、その概要・要点を理解・説明できる。			
5	【授業単元】 義手各論:前腕切断と義手 教科書P78~94 【到達目標】 教科書P78~94について、その概要・要点を理解・説明できる。				6	【授業単元】 義手各論:上腕切断と義手 教科書P95~106 【到達目標】 教科書P95~106について、その概要・要点を理解・説明できる。			
7	【授業単元】 義肢装具学 国家試験問題の解答・解説 中テスト15点(配信・義肢の問題) 【到達目標】 国家試験問題の解答と解説、その概要・要点を理解・説明できる。				8	【授業単元】 義肢学 義手のチェックアウト 【到達目標】 P121~137について、その概要・要点を理解・説明できる。			
9	【授業単元】 装具学 装具総論 【到達目標】 装具総論 P162~183 その概要・要点を理解・説明できる。 配付資料				10	【授業単元】 装具学 各論 上肢の装具 配付資料 【到達目標】 疾患の特徴とそれに合わせた装具の選択ができるようになる			
11	【授業単元】 装具学 各論 脳卒中片麻痺 P196~214 配付資料 【到達目標】 装具総論 脳卒中の病態を理解して、CRPS(複合性局所疼痛)について概要・要点を理解・説明できる。				12	【授業単元】 装具学 各論 頸髄損傷 教科書 P254~271 配付資料 【到達目標】 頸髄損傷の装具療法の目的と損傷高位によってどのようなADLでどのような装具を選択するについて理解する。			
13	【授業単元】 装具学 上肢補助具の作成 P185~195 【到達目標】 実際に上肢補助具を作成する。 持参物に関しては後日お知らせします。				14	【授業単元】 装具学 上肢補助具の作成 P185~195 【到達目標】 実際に上肢補助具を作成する。 持参物に関しては後日お知らせします。			
15	【授業単元】 義肢装具学⑯ 期末テスト 60点 義肢・装具の国家試験問題を中心に出題 【履修に当たっての心構え・留意点】 教科書は必ず持参すること。説明に対し、うなずく、メモを取る意識を持つこと。					【成績評価の方法と基準】 評価方法:筆記試験 小テスト・中テスト・定期テスト(小テスト・中テスト40点・期末試験 60点) 配点方法:100点の配点、AからFの6段階で評価する。試験は筆記試験で行う。			

## 授業概要

科目名	運動器障害作業治療学	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	中村 美歌		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間

### 【授業を通じての到達目標】

身体障害領域でみられる主に運動器疾患に対する作業療法介入を理解することができる。  
症状や病期等に基づいた介入方法について理解し、検討できる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

身体障害領域の回復期リハビリテーション病院にて19年の臨床経験があります。また、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。身体障害領域の作業療法について実践例を交えながら授業を行います。

【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】	
標準作業療法 身体機能作業療法学 第4版 医学書院 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版 メジカルビュー社		授業単元に応じた予習・復習をして下さい。	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	【授業単元】 身体障害における作業療法の流れ、リスク管理、標準予防策 ポジショニング、シーティング  【到達目標】 身体障害における作業療法の流れを理解できる。 身体障害の作業療法で必要なリスク管理を理解できる。 ポジショニングの意義や必要性、実施方法を理解できる。	9	【授業単元】 疾患別治療論2:腱板損傷
			【到達目標】 腱板損傷に対する治療法について理解できる。
2	【授業単元】 身体障害における作業療法:基本動作、移乗、移動  【到達目標】 基本動作、移乗、移動での介助者の身体の動かし方を理解できる。 基本的な治療方法について理解できる。	10	【授業単元】 疾患別治療論3:脊髄損傷①
			【到達目標】 脊髄損傷に対する治療法について理解できる。
3	【授業単元】 治療論1:関節可動域、筋力  【到達目標】 基本的な治療方法について理解できる。 基本的な治療方法の適応の仕方を理解できる。	11	【授業単元】 疾患別治療論3:脊髄損傷②
			【到達目標】 脊髄損傷に対する治療法について理解できる。
4	【授業単元】 治療論2:筋緊張、感覚、廃用、物理療法  【到達目標】 基本的な治療方法について理解できる。 基本的な治療方法の適応の仕方を理解できる。	12	【授業単元】 疾患別治療論3:脊髄損傷③
			【到達目標】 脊髄損傷に対する治療法について理解できる。
5	【授業単元】 治療論4:ADL練習  【到達目標】 ADLの練習方法について理解できる。 福祉用具や自助具の取り入れ方を理解できる。	13	【授業単元】 疾患別治療論4:末梢神経損傷
			【到達目標】 末梢神経損傷に対する治療法について理解できる。
6	【授業単元】 治療論5:IADL練習  【到達目標】 IADLの練習方法について理解できる。 福祉用具や自助具の取り入れ方を理解できる。	14	【授業単元】 疾患別治療論4:腱損傷
			【到達目標】 腱損傷に対する治療法について理解できる。
7	【授業単元】 疾患別治療論1:骨折①  【到達目標】 骨折に対する治療法について理解できる。	15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト  【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。
8	【授業単元】 前期の復習と中テスト 疾患別治療論1:骨折②  【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。 骨折に対する治療法について理解できる。	【成績評価の方法と基準】	科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。
【履修に当たっての心構え・留意点】			
実技を行いますので、動きやすい服装で参加して下さい。			

## 授業概要

科目名	中枢神経障害作業療法学	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	中村 美歌		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
身体障害領域でみられる主に中枢疾患に対する作業療法介入を理解することができる。 症状や病期等に基づいた介入方法について理解し、検討できる。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
身体障害領域の回復期リハビリテーション病院にて19年の臨床経験があります。また、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。 身体障害領域の作業療法について実践例も交えながら授業を行います。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>				<b>【授業時間外における学習】</b>					
標準作業療法 身体機能作業療法学 第4版 医学書院 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版 メジカルビュー社				授業単元に応じた予習・復習をして下さい。					
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 治療論1:不随意運動、協調運動障害	9	疾患別治療論2:頭部外傷						
	【到達目標】 基本的な治療方法について理解できる。 基本的な治療方法の適応の仕方を理解できる。		頭部外傷に対する治療法について理解できる。						
2	【授業単元】 治療論2:呼吸練習法、排痰手技、摂食嚥下練習、構音練習	10	疾患別治療論3:関節リウマチ						
	【到達目標】 基本的な呼吸・排痰・嚥下の練習法を理解できる。		【到達目標】 関節リウマチに対する治療法について理解できる。						
3	【授業単元】 疾患別治療論1:脳血管疾患①	11	【授業単元】 疾患別治療論4:多発性硬化症、ギランバレー症候群						
	【到達目標】 脳血管疾患に対する治療法について理解できる。		【到達目標】 各病気の特徴とそれに対する作業療法について理解できる。						
4	【授業単元】 疾患別治療論1:脳血管疾患②	12	【授業単元】 疾患別治療論5:糖尿病、悪性腫瘍						
	【到達目標】 脳血管疾患に対する治療法について理解できる。 主に機能訓練の方法を理解できる。		【到達目標】 各病気の特徴とそれに対する作業療法について理解できる。						
5	【授業単元】 疾患別治療論1:脳血管疾患③	13	【授業単元】 疾患別治療論6:パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症						
	【到達目標】 脳血管疾患に対する治療法について理解できる。 主に機能訓練の方法を理解できる。		【到達目標】 各病気の特徴とそれに対する作業療法について理解できる。 重症度に合わせた介入について理解できる。						
6	【授業単元】 疾患別治療論1:脳血管疾患④	14	【授業単元】 疾患別治療論7:心疾患、呼吸器疾患						
	【到達目標】 脳血管疾患に対する治療法について理解できる。 主に高次脳機能障害についての介入方法について理解できる		【到達目標】 各病気の特徴とそれに対する作業療法について理解できる。 運動強度について理解できる。						
7	【授業単元】 疾患別治療論1:脳血管疾患⑤	15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト						
	【到達目標】 脳血管疾患に対する治療法について理解できる。 主にALD・IADLについての介入方法について理解できる。		【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。						
8	【授業単元】 前期の復習と中テスト 疾患別治療論1:脳血管疾患⑥		<b>【成績評価の方法と基準】</b>						
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。 脳血管疾患に対して、主に退院支援について理解できる。		科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>				実技を行いますので、動きやすい服装で参加して下さい。					

## 授業概要

科目名	精神障害作業治療学	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	魚岸 実弦		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習に向け、精神障害領域の各障害に対する作業療法を実践する能力を身につける</li> <li>・精神疾患により生活のしづらさに悩む人々への治療・援助計画を、その人の個人因子・背景因子をふまえて立案し実践するための知識・技術を習得する</li> <li>・精神科治療、精神障害リハビリテーションと作業療法に関する基礎知識、疾患別の作業療法について説明できる</li> </ul>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は作業療法士及び社会福祉士であり、博士の学位をもつ。精神科病院作業療法士及び障害者グループホーム管理者の実務経験と、社会福祉協議会小地域福祉活動の扱い手経験、精神保健福祉領域のリハビリテーション研究経験を基に、入院治療から地域生活支援まで幅広く活かせる授業を展開する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害と作業療法 新版</li> <li>・作業療法学 ゴールドマスター<sup>TM</sup>キット 精神障害作業療法学 第3版</li> <li>・その他、授業内で関連資料を配布する</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎授業前後30分程度、学習内容の予復習や考察の機会をもつことを望む</li> </ul>				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1.2 9/6	【授業単元】 ・ひとと病い  【到達目標】 ・疾患と病いの違いを説明できる ・リカバリー概念を説明できる ・精神認知機能の支障を説明できる	17,18 11/1	【授業単元】 ・神経症圈・摂食障害と作業療法  【到達目標】 ・神経症圏における作業療法支援の基本を説明できる ・摂食障害における作業療法支援の基本を説明できる ・事例を通して援助計画を検討できる						
3.4 9/13	【授業単元】 ・精神科作業療法の特性  【到達目標】 ・精神科作業療法の目的、役割、手段を説明できる ・精神科作業療法の介入、効果を説明できる	19,20 11/8	【授業単元】 ・発達障害・神経認知障害と作業療法  【到達目標】 ・発達障害における作業療法支援の基本を説明できる ・神経認知障害における作業療法支援の基本を説明できる ・事例を通して援助計画を検討できる						
5.6 9/20	【授業単元】 ・精神科作業療法の治療構造  【到達目標】 ・精神科作業療法の治療構造を説明できる ・自己の治療的利用を説明できる ・集団や場を利用するコツを説明できる	21,22 11/15	【授業単元】 ・精神科作業療法の関連理論  【到達目標】 ・力動論の概要を説明できる ・レジリエンス概念の概要を説明できる ・ピアサポートの特長を説明できる						
7.8 9/27	【授業単元】 ・精神科作業療法の実践①  【到達目標】 ・急性期作業療法実践のポイントを説明できる ・緩和期作業療法実践のポイントを説明できる ・事例を通して援助計画を検討できる	23,24 11/22	【授業単元】 ・精神科作業療法の関連療法①  【到達目標】 ・心理教育のポイントを説明できる ・認知行動療法のポイントを説明できる ・マインドフルネスのポイントを説明できる						
9.10 10/4	【授業単元】 ・精神科作業療法の実践②  【到達目標】 ・地域移行支援のポイントを説明できる ・地域生活支援のポイントを説明できる ・事例を通して援助計画を検討できる	25,26 11/29	【授業単元】 ・精神科作業療法の関連療法②  【到達目標】 ・森田療法の各期の特長を説明できる ・園芸療法の特長を説明できる ・芸術療法の特長を説明できる						
11.12 10/11	【授業単元】 ・統合失調症と作業療法  【到達目標】 ・統合失調症における作業療法支援の基本を説明できる ・事例を通して援助計画を検討できる	27,28 12/6	【授業単元】 ・事例検討  【到達目標】 ・事例を基にグループで検討し、事例の援助計画を立案できる						
13.14 10/18	【授業単元】 ・気分障害と作業療法  【到達目標】 ・気分障害における作業療法支援の基本を説明できる ・事例を通して援助計画を検討できる	29,30 12/13	【授業単元】 ・本科目全体のまとめ ・定期試験  【到達目標】 ・これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる ・小テスト、中テスト、定期試験の合計が6割以上を達成できる						
15.16 10/25	【授業単元】 ・中テスト ・物質関連障害・パーソナリティ障害と作業療法  【到達目標】 ・前半の振り返りとして中テストを行い、自己の学習理解度を把握できる ・物質関連障害における作業療法支援の基本を説明できる ・パーソナリティ障害における作業療法支援の基本を説明できる		【成績評価の方法と基準】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う</li> <li>・試験は筆記試験で行う</li> <li>・毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする</li> </ul>						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを大切にし、授業に臨むことを望む</li> <li>・開講日 奇数回:金曜日18時～19時半(6限) 偶数回:金曜日19時40分～21時10分(7限)</li> </ul>									

## 授業概要

科目名	発達過程障害作業療法学	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	金城光・佐々木愛理		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
演習を通して、発達障害領域の作業療法評価、治療、援助を実践する能力を身につける。子どもの正常発達(運動と認知)についての概要を説明することができる。発達障害領域の評価の種類と内容と使い方を理解する。具体的な疾患の特徴を知り、それに対してのアプローチを説明することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
金城光:作業療法士・保育士として児童発達支援センターで勤務する教員が、発達障害をもつ子どもたちの特徴や、実際にどのようにリハビリテーションを行うかについて授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
長崎重信 監:イラストでわかる発達障害の作業療法. 医歯薬出版, 2016					授業単元に応じた予習・復習				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 第1章 小児の作業療法過程  【到達目標】 発達障害の定義や引き起こす疾患がわかる。小児の発達段階や発達課題がわかる。作業療法の実践課程が分かる。	9	【授業単元】 第7章 脳性麻痺-痙直型脳性麻痺  【到達目標】 脳性麻痺の定義、分類、疾患特徴を学び、痙直型脳性麻痺に対しての評価内容や支援内容を考えられるようになる。						
2	【授業単元】 第2章 評価・治療・援助のための基礎知識  【到達目標】 認知や社会性、ADLや遊びなど発達の基礎がわかる。評価・治療・援助の理論やモデルを知る。	10	【授業単元】 第8章 脳性麻痺-アトーティゼ型脳性麻痺  【到達目標】 アトーティゼ型脳性麻痺の原因や病態について学び、評価内容や支援内容を考えられるようになる。						
3	【授業単元】 第3章 心身機能の発達過程  【到達目標】 運動機能や販社の発達が分かる。感覚統合機能の発達を知る。各機能の発達が分かる。	11	【授業単元】 第9章 重症心身障害  【到達目標】 重症心身障害の定義や分類などを学び、環境設定や日常生活の支援内容を考えられるようになる。						
4	【授業単元】 第4章 自閉症スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害  【到達目標】 自閉症スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害の特徴を学び、評価内容や支援内容を考えられるようになる。	12	【授業単元】 第11章 デュシャンヌ型筋ジストロフィー  【到達目標】 デュシャンヌ型筋ジストロフィーの病態や特徴を知り、環境設定や日常生活の支援内容を考えられるようになる。						
5	【授業単元】 第5章 注意欠如・多動症  【到達目標】 注意欠如・多動症の特徴を学び、評価内容や支援内容を考えられるようになる。	13	【授業単元】 第12章 小児整形疾患(二分脊椎・分娩麻痺・骨形成不全症)  【到達目標】 作業療法の現場で関わることの多い整形外科疾患について学ぶ。疾患ごとの見る特徴や環境設定、日常生活の支援内容を考えられるようになる。						
6	【授業単元】 第6章 学習障害  【到達目標】 学習障害の特徴を学び、評価内容や支援内容を考えられるようになる。	14	【授業単元】 第13章 小児リハビリテーションと支援制度  【到達目標】 小児リハビリテーションに関わる支援制度に触れる。障害児が利用するサービスや教育制度について知る。						
7	【授業単元】 第10章 知的障害・ダウントン症候群  【到達目標】 知的障害やダウントン症候群などの特徴を学び、評価内容や支援内容を考えられるようになる。	15	【授業単元】 定期試験  【到達目標】						
8	【授業単元】 第14章 障害児の保護者への子育て支援  【到達目標】 児の障がいの種類、保護者の障害受容について学ぶことができる。 自分が現場にでたときの保護者への支援方法が具体的に想像ができる。		【成績評価の方法と基準】  科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】					授業単元に応じた予習・復習				

## 授業概要

## 授業概要

## 授業概要

科目名	日常生活活動学演習	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	星野 裕亮		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間

**【授業を通じての到達目標】**

日常生活活動・手段的日常生活動作に対する基本的な作業療法について理解する。  
日常生活活動・手段的日常生活動作の概念について説明できる。  
日常生活活動・手段的日常生活動作の評価について説明できる。  
各動作における支援の方法について説明・演習を通して模擬実践できる。

**【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)**

大学病院でかつ急性期医療の中で働く作業療法士(18年目)が、臨床現場で必要となる日常生活活動論・手段的日常生活活動論を経験談を交えて提供する。必要に応じてグループワークを行い、各疾患における様々な評価方法や作業療法への展開の仕方を学ぶ。

**【使用教科書・教材・参考図書】**

授業資料、指定教科書

**【授業時間外における学習】**

自主学習

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1 2	【授業単元】 起居動作・移動 食事動作  【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。		
3 4	【授業単元】 整容動作 更衣動作  【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。		
5 6	【授業単元】 排泄動作 入浴動作  【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。		
7 8	【授業単元】 睡眠・栄養・運動 炊事  【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。		
9 10	【授業単元】 掃除 買い物・経済管理  【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。		
11 12	【授業単元】 交通機関の利用・自動車運転 通信  【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。		
13 14	【授業単元】 趣味活動・社会参加 総復習  【到達目標】 各動作における概念や評価について説明できる。		
15	【授業単元】 総復習、定期試験  【到達目標】 各動作における支援の方法について説明・演習を通して模擬実践できる。		<p><b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目的評価は、定期試験60%、授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 授業の小テストは合計65点、中テスト(おおよそ半分の授業回数で実施予定)は15点満点とする(合計80点)。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p> <p>○試験は①実技試験+口頭試問(20点+20点)、②主に国試過去問による筆記試験(20点)</p>
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>			
演習では主に脳血管障害と脊髄損傷のADL指導と介助方法の習得を図ります。演習の際には動きやすい格好で登校若くは学校で着替えてください。実習や現場に出た時に必ず必要になるスキルですので積極的な参加を期待します。			

## 授業概要

科目名	臨床実習Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	大和田みな未・中村勇貴			
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	2年	授業の方法	実習	単位数	5	単位	総時間数	225 時間

【授業を通じての到達目標】

臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。

【使用教科書・教材・参考図書】

【授業時間外における学習】

臨床実習Ⅱ要項

各教科書

実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。

授業計画

以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。

・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域)

社会性

コミュニケーション

挨拶

主体性

協働意識

自己研鑽

ルール（倫理観など）

・専門的能力の習得：作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域)

基本的知識の習得

作業療法計画に沿った評価計画、立案評価及び治療技術・技能

全体像の把握・考察・記録

再評価計画立案、再評価結果の統合と解釈

作業療法計画再立案

【履修に当たっての心構え・留意点】

【成績評価の方法と基準】

作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。

実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。

## 授業概要

科目名	基礎医学特論 III	必修選択の別	必修	開講区分	通年	担当教員	小林 誠			
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	3年	授業の方法	演習	単位数	4 単位	総時間数	120 時間	
【授業を通じての到達目標】										
作業療法士国家試験(精神・心理領域)に合格できる知識を獲得する。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
講師は、作業療法士として17年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年となる。 国家試験対策の指導歴は10年目。OT現役学生はもちろん、OT卒後生や他資格(理学療法士、精神保健福祉士など)の学生も指導しており、これまでに数百人の国家試験合格に携わっている。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
クエスチョンバンク 2025 共通・専門					過去問と向き合う。 授業資料を整理し、自分なりにまとめる。					
回	授業計画	回	授業計画							
1,2	【授業単元】 国試対策① いろいろ その1  【到達目標】 正答率80%	17,18	【授業単元】 国試対策⑨ 気分障害 その2  【到達目標】 正答率80%							
3,4	【授業単元】 国試対策② いろいろ その2  【到達目標】 正答率80%	19,20	【授業単元】 国試対策⑩ 気分障害 その3  【到達目標】 正答率80%							
5,6	【授業単元】 国試対策③ いろいろ その3  【到達目標】 正答率80%		【授業単元】  【到達目標】							
7,8	【授業単元】 国試対策④ いろいろ その4  【到達目標】 正答率80%		【授業単元】  【到達目標】							
9,10	【授業単元】 国試対策⑤ 統合失調症 その1  【到達目標】 正答率80%		【授業単元】  【到達目標】							
11,12	【授業単元】 国試対策⑥ 統合失調症 その2  【到達目標】 正答率80%		【授業単元】  【到達目標】							
13,14	【授業単元】 国試対策⑦ 統合失調症 その3  【到達目標】 正答率80%		【授業単元】  【到達目標】							
15,16	【授業単元】 国試対策⑧ 気分障害 その1  【到達目標】 正答率80%		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。  100点の内訳は、 国試対策①～⑤ 出席点 2点/コマ × 10コマ = 20点 国試対策⑥～⑩ 小テスト 各回 4点 × 5回 = 20点 定期テスト 60点満点  (以上で、合計100点満点)							
【履修に当たっての心構え・留意点】					※ 中テストは行わない。 ※ 小テストは前回の授業の内容で実施。 例) 国家試験対策⑤の内容 ⇒ 国家試験対策⑥の授業内にて小テスト実施 ※ 定期テストは、国試対策セミナー内で実施する。(日程はあらためて告知する)					
過去問は憶えるまで繰り返し解くこと。										

## 授業概要

科目名	地域実習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小泉雄一・石井茉弥		
学科 コース	作業療法士科夜間部	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	2 単位	総時間数	90 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
地域生活支援を実践する場(通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション等)で実習をすることにより、地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける。									
<b>【学習内容】</b> (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士の実習指導者から実習中の取り組みについてフィードバック等の指導を受け、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。学内で実習前後教育を1単位(45時間)実施し、現場実習を1単位(45時間)とする。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
配布資料、地域作業療法学第3版(医学書院)					日誌の作成、調べ学習				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 (実習前教育) オリエンテーション、実習前セミナー  【到達目標】 必要な知識を事前学習をし、実習に向けた準備が出来る。	9	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける						
2	【授業単元】 (実習前教育) 実習前セミナー、実習前試験  【到達目標】 実習前試験に合格し、実習へ向かう準備を完了できる。	10	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける						
3	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける	11	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける						
4	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける	12	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける						
5	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける	13	【授業単元】 (実習後教育) オリエンテーション、実習後セミナー  【到達目標】 実習を振り返り、学習内容を整理することができる。						
6	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける	14	【授業単元】 (実習後教育) 実習後セミナー  【到達目標】 実習を振り返り、学習内容を整理することができる。						
7	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける	15	【授業単元】 (実習後教育) 実習後セミナー、実習後試験  【到達目標】 実習後試験に合格することができる。						
8	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける		【成績評価の方法と基準】 ①実習地で採点する「基本的能力評価(60点)」、②実習前後試験「OSCE(20点)」、③実習報告書(20点)、計100点で採点をする。  合格基準は学則上の成績判定基準に準ずる。						
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>					地域で生活する対象者、作業療法に興味を持ち取り組むことができる。				

## 授業概要

科目名	臨床実習Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	小泉雄一・石井茉弥			
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	3年	授業の方法	実習	単位数	9	単位	総時間数	405 時間

【授業を通じての到達目標】

臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。

【使用教科書・教材・参考図書】

【授業時間外における学習】

臨床実習Ⅱ要項  
各教科書

実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。

授業計画

以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。

・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域)

社会性  
コミュニケーション  
挨拶  
主体性  
協働意識  
自己研鑽  
ルール（倫理観など）

・専門的能力の習得：作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域)

基本的知識の習得  
作業療法計画に沿った評価計画、立案評価及び治療技術・技能  
全体像の把握・考察・記録  
再評価計画立案、再評価結果の統合と解釈  
作業療法計画再立案

【履修に当たっての心構え・留意点】

【成績評価の方法と基準】

作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。

実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。

## 授業概要

科目名	臨床実習Ⅲ	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	小泉雄一・石井茉弥			
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	3年	授業の方法	実習	単位数	9	単位	総時間数	405 時間

【授業を通じての到達目標】

臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。総合的に対象者像を把握できる。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。

【使用教科書・教材・参考図書】

臨床実習Ⅲ要項  
各教科書

【授業時間外における学習】

実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。

授業計画

以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。

・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域)

社会性

コミュニケーション

挨拶

主体性

協働意識

自己研鑽

ルール（倫理観など）

・専門的能力の習得：作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域)

基本的知識の習得

作業療法計画に沿った評価計画、立案評価及び治療技術・技能

全体像の把握・考察・記録

再評価計画立案、再評価結果の統合と解釈

作業療法計画再立案

【履修に当たっての心構え・留意点】

作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。

【成績評価の方法と基準】

実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。

## 授業概要

科目名	作業療法総合学習Ⅰ	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	渡辺陵介、学科教員		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	3年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

1.2年生で学んだ内容を総復習し、作業療法に関する学習を深める。自分で計画的に作業療法の学習を行うことができる。

(学習内容)(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

作業療法の各分野で臨床経験を持つ教員が持ち回りで授業を展開します。作業療法を学習する上で押さえておくべきポイント、学習を深めるポイントなどを伝え、グループワークを通して学びを深めていきます。

【使用教科書・教材・参考図書】 クエスチョンバンク		【授業時間外における学習】 授業の予習復習	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができる	9	【授業単元】 専門分野の復習  【到達目標】 専門分野の復習を通して理解を深めることができる
2	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができる	10	【授業単元】 専門分野の復習  【到達目標】 専門分野の復習を通して理解を深めることができる
3	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができます	11	【授業単元】 専門分野の復習  【到達目標】 専門分野の復習を通して理解を深めることができます
4	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができます	12	【授業単元】 専門分野の復習  【到達目標】 専門分野の復習を通して理解を深めることができます
5	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができます	13	【授業単元】 専門分野の復習  【到達目標】 専門分野の復習を通して理解を深めることができます
6	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができます	14	【授業単元】 専門分野の復習  【到達目標】 専門分野の復習を通して理解を深めることができます
7	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができます	15	【授業単元】 定期テスト(模試)と復習  【到達目標】 定期テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する
8	【授業単元】 確認テスト(模試)と復習  【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する		【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。試験は筆記試験で行う。小テストは最終的に40%へ換算して点数化する。 定期テストは11月3日の模試とする。定期テストは模試の点数に準じてA～Fランクで評定をつける(基準点は別紙参照)。 Aは60点、Bは55点、Cは45点、Dは35点、Eは25点、Fは15点として定期試験の評定とする。
【履修に当たっての心構え・留意点】			
毎回の授業では、適宜ノートやメモを取ること			

## 授業概要

科目名	作業療法総合学習Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	通年	担当教員	渡辺陵介、学科教員		
学科コース	作業療法士科夜間部	学年	3年	授業の方法	演習	単位数	5 単位	総時間数	150 時間

### 【授業を通じての到達目標】

1.2年生で学んだ内容を総復習し、作業療法に関する学習を深める。  
自分で計画的に作業療法の学習を行うことができる。

**【学習内容】**(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

作業療法の各分野で臨床経験を持つ教員が持ち回りで授業を展開します。作業療法を学習する上で押さえておくべきポイント、学習を深めるポイントなどを伝え、グループワークを通して学びを深めていきます。

【使用教科書・教材・参考図書】 クエスチョンバンク		【授業時間外における学習】 授業の予習復習	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	【授業単元】 解剖学の復習  【到達目標】 解剖学の要点を理解できる	9	【授業単元】 身体障害領域の作業療法(脳血管障害)の復習  【到達目標】 脳血管障害の作業療法の要点について理解できる
	【授業単元】 生理学の復習  【到達目標】 生理学の要点を理解できる		10 【授業単元】 身体障害領域の作業療法(骨関節・神経筋疾患)の復習  【到達目標】 骨関節・神経筋疾患の作業療法の要点について理解できる
3	【授業単元】 運動学の復習  【到達目標】 運動学の要点を理解できる	11	【授業単元】 身体障害領域の作業療法(内部障害)の復習  【到達目標】 内部障害の作業療法の要点について理解できる
	【授業単元】 内科学の復習  【到達目標】 内科学の要点を理解できる		12 【授業単元】 義肢装具学、福祉用具学、作業療法概論、地域作業療法学、発達障害に対する作業療法の復習  【到達目標】 義肢装具学、福祉用具学、作業療法概論、地域作業療法学、発達障害に対する作業療法の要点について理解できる
5	【授業単元】 確認テスト(模試)と復習  【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する	13	【授業単元】 確認テスト(模試)と復習  【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する
	【授業単元】 神経内科学、整形外科学、人間発達学、末梢神経・筋疾患の復習  【到達目標】 神経内科学、整形外科学、人間発達学、末梢神経・筋疾患の要点を理解できる		14 【授業単元】 確認テスト(模試)と復習  【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する
7	【授業単元】 作業療法評価学の復習  【到達目標】 作業療法評価学の要点について理解できる	15	【授業単元】 定期テスト(模試)と復習  【到達目標】 定期テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する
	【授業単元】 確認テスト(模試)と復習  【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。試験は筆記試験で行う。小テストは最終的に40%へ換算して点数化する。 定期テストは11月24日の模試とする。定期テストは模試の点数に準じてA～Fランクで評定をつける(基準点は別紙参照)。 Aは60点、Bは55点、Cは45点、Dは35点、Eは25点、Fは15点として定期試験の評定とする。
【履修に当たっての心構え・留意点】 毎回の授業では、適宜ノートやメモを取ること			